

千葉市少年軟式野球協会 大会運営規定

(令和6年3月改定)

赤文字:規定の追加

青文字:文言修正や移動

千葉市少年軟式野球協会（以下「協会」という。）主催大会は、協会規約に基づき最新版の公認野球規則・最新版の全日本軟式野球連盟競技者必携を準用し、協会大会運営規定により実施する。

(選手登録・チーム編成)

- 1 大会に出場できるチームは、千葉市少年軟式野球協会に登録されたチームであること。
- 2 チーム編成は、Ⅰ部6年生以下、Ⅱ部5年生以下とする。
ただし、Ⅰ部チームは6年生が15名に満たない場合は5年生以下の選手登録を認め、15名以内でチーム編成することができる。
【H26・3/9改定:追加】合同チームでの参加を別紙(合同チームの取り扱いについて)の通り認める。
- 3 試合中ベンチに入れる人数は、単独チーム選手20名、指導者は代表者(又は副代表)、監督、コーチ3名、スコアラー1名の6名以内及び介護員2名以内を加えた合計8名以内とする。
但し、単独同一学年で 21名以上の場合は 大会委員長の特別承認事項とする。
- 4 背番号については、Ⅰ部、Ⅱ部とも監督30番、コーチ29番、28番、27番とする。
監督が都合で不在の場合は、29番、28番及び27番の監督代行を認めるが、その場合は当日、球場責任者と当該審判員に監督代行の旨を申し出ること。なお、その他の者が監督代行としてベンチに入ることはできない。
選手の背番号は主将を10番とする。他の選手の背番号0番は認めるが00番は認めない。
監督とコーチの服装は全て選手と同一とする。
服装違反の指導者はベンチから除かれる。
ベンチ入りする代表者、スコアラーのユニフォームの着用は認めないが、チームと同一の帽子を着用する。
ベンチ入りする介護員は、軽快な服装を着用し、帽子は必ずしも着用しなくても良いが、協会指定の介護員章を身に付ける。
- 4-1 監督が試合途中からベンチに入る場合は、試合前のメンバー表監督欄に監督名を記入し、球場責任者、当該審判員及び相手チームの了承を得る。
ベンチ入りするときは、球場責任者の了解を得たうえでインニング後攻の終了時とする。

(試合の準備)

- 5 試合予定チームは、試合開始予定時刻60分前迄に試合場に到着し、球場責任者(以下「球責」という。)に届け出ること。
- 6 試合予定チームは、試合開始予定時刻迄に到着しないときは原則として棄権とみなす。
当該判断は、球場責任者と当該審判員で決定する。
- 7 球場責任者は、試合予定チームの球場到着状況の把握を行うとともに、当該チームにグラウンドへの入場時間を告げ、入場の指示を行う。
7-1 球場内でのフリーバッティングは禁止する。
7-2 試合前の素振り、バント練習、トスバッティング(第1試合に限定)は、指導者立会いの下、外野で行うことができる。なお、球場責任者の判断で中止する場合がある。
- 8 球場責任者は、当日試合予定チームの指導者に対してグラウンドづくりの指示を行う。また、当日担当審判員に協力を仰ぎルール確認・グラウンドの最終確認を共に行い、試合の円滑な進行に努めるものとする。
- 9 ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。攻撃順はメンバー表提出時のトスにより決める。
- 10 メンバー表はフルネームを記入し、ふりがなを附して、第1試合の場合は試合開始40分前に、第2試合以降の場合は前試合の4回終了時に球責へ4部提出する。
- 11 試合前の練習及びシートノック時の手伝いは、ベンチ入りスタッフでユニフォーム(30番、29番、28番、27番)着用者が行う。なお、第1試合に限り、トス前までは前記スタッフのほかにユニフォーム着用者の手伝いを認める。
- 12 シートノックは1チーム5分以内とし、ノッカーに対する背後からのボール渡しは、危険防止のため禁止する。

- 13 シートノック時、指導者の補助を認める。その際ダートサークルに入る場合はヘルメットを着用すること。
- 14 シートノック時及び試合中、投球練習の指導者の捕手(ブルペンを含む)を認める。ただしマスクを着用すること。
(マスク未着用の場合は立って行うこと)
- 15 試合の記録は、球場責任者(又は球場責任者からの指名者)が行なう。
- 16 介護員は、試合前の選手の健康状態把握に努めるものとする。又、選手が攻撃又は守備中に負傷した場合は、速やかに救護用具(スプレー等)を持ってグラウンドに出向くこと。
グラウンドに出る際は、軽快な服装で救護用具以外は持たないことに留意する。

(試 合)

- 17 指名打者ルールを使用することができる。ルールの詳細は競技者必携の通りとする。
(試合運営の補足は「大会運営規定 特別規定細則」を参照)
- 18 試合は、Ⅰ部、Ⅱ部とも6回戦又は、1時間30分(シートノックは含まない)とし、時間を優先とする。
同点の場合は、時間内で延長戦を行なう。
- 19 1時間30分又は時間内延長戦で勝敗がつかない場合は、2回を限度としてタイブレーク(特別延長戦)を行なう。
球場責任者は特別延長戦イニングの表及び裏の攻撃開始前に、満塁走者の位置と打順を確認して担当審判員にプレイ再開の指示を行う。
『タイブレーク』は、 前回終了時打者の次の打者から1死満塁で攻撃開始する。
例 前回3番打者で攻撃終了の場合、4番打者から攻撃開始とする。走者は1塁に3番打者、2塁に2番打者、3塁に1番打者となる。
この際、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。
2回のタイブレークで勝敗が決まらないときは、最終回時のメンバー各9名の選手による○×抽選を行い勝敗を決する。抽選は当該審判員4名により、競技者必携「競技に関する連盟特別規則」に定める抽選方法に沿って行なうものとする。
決勝戦は、勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返し行う。
- 20 時間内延長戦・タイブレークとも、投手の投球制限を継続する。
- 21 点差によるコールドゲームは、Ⅰ部、Ⅱ部とも3回以降15点差、5回以降7点差とし、降雨、日没の場合は4回終了をもって試合成立とする(後攻チームの得点が上まわっていれば4回表終了時成立)。
決勝戦にも適用する。
- 22 前項による試合成立で同点のまま試合が打ち切りとなった場合は、サスペンデッドゲーム(継続試合)として後日、継続して試合を行なうこととする。
- 23 準備投球は、1回目と投手交代時は、5球以内、2回以降は3球以内とする。
なお、球場責任者・当該審判員は天候不順などのとき、投球数を減ずることができる。
- 24 ファウルボールは、1塁側方向は1塁側ベンチ、3塁側方向は3塁側ベンチが処理する。
バックネット中央付近のファウルボールは、攻撃側ベンチが処理する(ボールの取り合いケガ防止)。

(抗議権・タイム回数制限・他)

- 25 試合中抗議のできる者は、監督と当該選手とする。
試合中監督が審判員の許可を得て選手に指示をする場合は、投手マウンドまで小走りで行き、指示後も速やかに戻る。野球規則5.10の監督が投手のもとに行く回数の制限(投手交代)は適用しない。
- 26 試合中のタイム回数は、守備時は監督3回以内及び選手3回以内とし、監督と選手2名以上の場合はそれぞれ1回とみなす。攻撃時は3回以内とする。
- 27 延長戦の場合は、各イニング毎に守備時、攻撃時それぞれ1回以内とする。
なお、選手交代、怪我の手当てなどのタイムは回数に含まない。
- 28 臨時代走には、打順前位者(ただし投手と捕手を除く)とする。

(投手の投球制限)

- 29 投手の肩、肘等の障害発生防止のため、以下の通り投球制限を行なう。
1日の投球数は70球以内とする。なお4年生以下は60球以内とする。
- 30 投球数のカウントについては以下の通りとする。
①試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
②ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
③タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
④けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。
- 31 千葉県少年軟式野球協会主催以外の大会における投球制限
当該チームの監督及び指導者は、当協会が設定した投球制限の趣旨を尊重し、前条(No.29)記述の制限内に収まるよう、投球障害発生防止に配慮した投手起用に努めるものとする。

(野球場・用具と保護具・服装)

- 32 I部、II部とも塁間23m、本塁から投手板迄の距離は16m、ベースは移動ベースとする。
本塁ベースは、一般用を使用し、区画線は、学童部用とする。
※プレイ中、ベースが元の位置から動いた時の審判のジャッジの基準は別紙の定めによる。
- 33 試合場の広さ、障害物、その他の状況を考慮し、その試合の特別ルールを作ることができる。
※特に、進塁権の取扱いとは別紙の定めによるものとする。
- 34 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」マーク入りとする。
- 35 ヘルメットは、「SG」「JSBB」マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを最低8個用意し、打者、次打者、走者、ランナーズコーチ、ボールボーイが着帽すること。
- 36 捕手(控え捕手も含む)は、マスク(スロートガード付)、レガース、プロテクター、ファウルカップ、ヘルメットを使用すること。シートノック及び投球練習時も同様とする。
- 37 マスクは、安全基準に適合した「SG」「JSBB」マーク入りのこと。審判員も同じとする。
- 38 選手の手袋使用は、守備・打撃・走塁共に認める。ただし、投手守備時の手袋使用は不可とする。
指導者の手袋使用は、シートノック時のみとする。
- 39 投手は、手首や腕に、リストバンドなどを使用することはできない。
- 40 選手、指導者のユニフォームのアメリカンロングパンツ(又はダボパン)の着用は不可とする。

(マナーとペナルティ)

- 41 大会において、不正を行なったチームへの処置。
(1) 不正を行なったチームは失格とする。
(2) 試合中及び試合終了後に発見された場合は相手方に勝利を与える。
(3) 決勝戦の場合は準優勝チームを優勝とし、準優勝は協会預かりとする。
- 42 止むを得ず棄権する場合は、試合日の5日前迄に大会委員長に届け出ること。
- 43 抽選会議に欠席のチームは、棄権とする。
選手登録以後の変更は、開会式当日受付時までには大会事務局に届け出る。
- 44 ランナーコーチの走者補助行為の取り扱い
ランニングホームラン等インプレイ中にランナーコーチの肉体的援助があった場合は、その走者をアウトにする。柵越え本塁打等、ボールデッド中に同じく走者に触れた場合は、走者をアウトにしないで注意をする。
- 45 各チームの応援団、ベンチは、相手チームの気分を害さないよう少年野球に相応しい応援で臨むこと。
応援については、チーム監督が責任をもつ。特に選手、審判等に対する野次、その他品位を欠く言動は厳に慎むこと。違反した場合は必要な処置を取る。
- 46 メガホンはベンチ内1個でかつ監督(不在の場合代行者)のみ使用できる。
- 47 試合当日、最終試合になった両チームの指導者は、試合終了後にグラウンド整備を行うとともに、大会で使った机・椅子等の後片づけの手伝いを行うものとする。

- 48 試合を行うチームは、救急箱を必携すること。又、ゴミ袋等を用意し、使用球場の美化に努めグラウンドの整備も行うこと。
- 49 当協会役員(補助役員を含む)の開・閉会式及び大会期間中の服装は、極力、所定の被服着用のこと。

(審判員の順守事項)

50 審判員の資格と順守事項

- (1) 審判員は、協会指定の講習を受講し、審判員認定証の交付された者とする。
- (2) 審判員は、試合中審判員章を制服の左胸に付すこと。認定証を携帯すること。
- (3) 審判員は、協会公認の長袖又は半袖審判服及び公認のズボンを着用する。
6～9月の期間は原則半袖着用とするが、この期間に限らず天候に合わせての着用を可とする。
その際、4人共又は塁審3人はできるだけ何れかに合わせるものとする。
- (4) 審判員は常に公正を期すため、審判の服装のままでベンチや応援スタンド等に立ち入ることはできない。

51 審判員の心得

- (1) 審判員は、試合開始60分前までに試合場に到着し、試合開始前に打合わせ、確認などのミーティングをすること。試合終了後もお互いの審判技術向上のための反省会を必ず行なうこと。
球審又は互選者は試合終了後、審判報告書に必要事項を記入すること。
- (2) バット検査の際、グリップテープ等の剥がれたものは安全上認めない。
- (3) 審判の各ポジションは協会の指定がない限り、抽選番号の先番が本塁・2塁、後番が1塁・3塁を担当する。
- (4) 【審判ローテーション】
2試合の場合、1試合目は第2試合のチームが、2試合目は第1試合のチームが担当する。
3試合の場合(3→1、1→2、2→3)
4試合の場合(2→1、1→2、4→3、3→4)
- (5) 天候急変により雷雲が発生した場合は、球場責任者とも協議を行い試合の中断、中止等適切な措置をとること。
- (6) 審判員は、特に時間意識をもって行動することに努める。
攻守交代時は選手とともに駆け足で移動、球審は捕手防護用具の速やかな装着の指導、打者がサイン確認のため1球毎にバッテリーボックスを外すこと等がないよう、こまめに指導を行うよう努める。

(その他)

- 52 本規定は、理事会の承認を得て変更することができる。

令和6年3月10日 理事会にて改定承認